

特集

水道から見た災害対策～市の取組現場から～

大地震や台風・大雨、洪水…各地で頻発する災害は、決して他人ごとではありません。いつ起こるかわからない災害に、市の上下水道部はどのような取り組みをしているのでしょうか。



↑写真上 道路が崩落しても抜けなかった地震に強い水道管(葛巻町)

～コラム～

管路更新や耐震化にかかる費用はどこから？

水道管を更新するためには、工事費など莫大な費用がかかります。これら水道に関する費用は、すべて皆様からいただいた水道料金で賄っています。つまり、水道料金の中から、毎年収益となる部分(収支差額)をその費用に充てているのです。しかし、老朽化が進む水道管の更新にかかる費用は全国的に年々増加しており、収益が追いつかず水道料金の見直しを迫られる事業者が今後増えていくと言われています。

↓写真下 応援給水(岩泉町)のようす



～私たちにできる、水の備えは？

飲料水などの備蓄をする

生活する上で必要な飲料水は、1人につき1日3リットルと言われています。救助が来るまでに数日かかることを想定し、家族の人数×3リットル×3日分の飲料水を備蓄しておきましょう。

また、トイレに流す水なども必要なので、お風呂の水を捨てずにとっておくことで、いざというとき役に立ちます。

市の取組①

管路更新・耐震化事業

「管路更新」とは、古い水道管を新しい水道管に替えることで、「耐震化」とは、地震などの災害に強い管に整備・更新する取り組みのことです。市では平成11年から耐震化に着手しており、東日本大震災で震度6弱の地震にあっても、断水になるような水道管の破損はありませんでした。

現在、滝沢市の水道管は全長約350kmで、地震に強い管は3割弱の103kmですが、これを平成34年度までに、4割にすることを目標としています。

市の取組②

相互応援給水活動

大規模災害が起きて市内の水道施設が被災すれば、長期間の断水等使用者の皆様にも重大な影響が及び可能性があります。このような場合に備え、他地域から給水支援が受けられるよう、相互に応援体制を整えています。

今年9月の台風10号による岩泉町の断水の際にも、滝沢市の水道職員が13日間・延べ40名を派遣し、応援給水を行いました。このように、万一の際は、滝沢市も支援を受けられることになります。※応援給水の費用は支援を要請した水道事業者が負担します。

市の取組③

連絡管による水の融通(盛岡市)

災害時に、万一市内の浄水場等が停止した場合でも、盛岡市から水の融通を受けられるよう、連絡管を整備しています。非常時にはお互いに水を融通し合う体制を整え、災害時のライフラインの確保に努めています。

